

# 探究的な学習における生徒の主体性を育む授業づくりに関する研究 －防災教育を題材とした地域課題の解決を通して－

山口県立萩商工高等学校 教諭 小田 知志

## 1 研究の意図

### (1) 研究の背景

中央教育審議会答申\*<sup>1</sup>では、「高校生の現状の一つとして、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しており、高等学校における教育活動を、高校生を中心に据えることを改めて確認し、その学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換することが急務である」と示されており、生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現が必要とされている。

### (2) 研究テーマ設定の理由

原籍校では、工業科・商業科の専門科目である課題研究の授業において、探究的な学習に取り組んでいる。しかし、授業では教師が指示する場面が多いことから、生徒の主体的な取組に向けた授業改善が必要となっている。そこで、以下に示す研究の仮説を設定した。

### (3) 研究の仮説

探究的な学習において、地域の身近な課題を取り上げ、その解決に向けて仲間と協働することで、生徒の学習意欲を喚起し、主体性を育むことができる。

## 2 研究の内容

### (1) 本研究における「主体性」とは

本研究では、生徒の主体性を「学習活動に見通しをもっていること」「課題を自分事としてしていること」「課題解決に向けて意欲的に行動しようとしていること」の三つの観点により見取ることとする。

### (2) 授業実践

原籍校が避難所に指定されていることを踏まえ、第3学年14人（工業科5人、商業科9人）の生徒を対象とした課題研究の授業において、地域の防災を題材とした授業を実践した（表1）。授業では、生徒がこれまで学んできた各教科の見方・考え方を働かせながら、生徒同士や地域の人と協働することを学習の中心に据えて、防災に関する具体的な課題の設定や、その解決に向けた企画の考案に取り組んだ。

表1 授業実践の概要

	第1回授業実践(6・7月)	第2回授業実践(9・10月)
単元名	支え合う町づくり防災教育を通して (全8時間)	地域の人と協働した高齢者に心地よい避難所づくりに向けて (全12時間)
主な学習活動	萩市防災危機管理課から防災についての基礎知識を学ぶ。また、避難所生活を考える上で、萩市の高齢化率の高さなど切実な課題についても統計資料等を確認することで、現状を把握し、課題を発見する。さらに、それぞれの学科のよさを生かし、グループで課題解決に向けた企画を考える。	生徒一人ひとりが企画に関係が深いと思われる人々（工務店の職人や高齢者施設の職員等）にインタビュー活動を計画し、実施する。その後、生徒が構成したグループごとに分かれて、実施したインタビューの内容を参考にしながら企画の改善を図る。さらに、地域の人と協働することで、よりよい企画となるよう改善を図る。

#### ア 防災を題材とする理由

地域の防災を題材とすることで、生徒が課題を自分事として捉えやすくなると考えた。また、防災は地域の人にとっても身近な関心事であることから、地域の課題解決に向けた活動は、生徒と地域の人とが目標を共有し、協働して取り組みやすくなると考えた。

## イ 授業の効果を高めるための工夫・準備

第1回授業実践後に、原籍校の授業担当者が担当する生徒一人ひとりと面談を行い、生徒の思いや考えを引き出した。そして、面談の中で生徒から出てきた思いから、避難所での生活体験を通して課題解決に関する手法を学ぶことを目的として、夏季休業中に1泊2日の防災キャンプを生徒と共に企画し実施した。さらに、第2回授業実践では、生徒が課題をより自分事として捉え、話合いが一層深まることをねらいとして、4人の地域の人（萩市防災危機管理課職員や避難所生活の経験のある近隣の高齢者、保育士、工務店経営者（学校運営協議会委員））に授業への参加を依頼した。

## ウ 地域の人と協働した授業の進め方

まず、地域の人を含めたグループでの話合いを進めやすくするため、生徒と地域の人で目標を共有する。次に、目標への意識を高めさせるため、4項目（①表現・発信力②前向き・責任感・チャレンジ③他者との協働④自分を支える力）について4段階（S～C）の到達度を示したルーブリックにより、生徒自身がその時間の到達目標を設定する。協働的な話合いの場面では、地域の人からよりよい助言を得るために、各教科の見方・考え方を働かせて作成した案を企画書にまとめ、資料の一つとする。さらに、振り返りにおいて、次回の学習の見通しをもたせるため、生徒が設定した自身の目標に対する達成度合いを評価させる。

### (3) 授業実践の結果と考察

全2回の授業実践を通して、地域の人とともに課題解決に向けた課題の設定や方策を提案する場面では、生徒が課題を実感したり、積極的に発言したりしている姿が見られた。これは、防災教育を題材として取り上げたことが、課題を生徒が自分事として捉えることを促し、学習意欲を喚起することにつながったと考える。

また、授業後の生徒への聞き取りでは、14人中13人が「学習目標を共有することで話合いが深まり明確になった」と回答しており、生徒と地域の人で目標を共有することにより、見通しをもって学習を進めることができたと考える。さらに、他学科の生徒や地域の人と協働して話合いを進めたことにより、振り返りの場面では「パーティションの強度の確認ができていないので、今後は模型などを製作して確かめる必要があると思った」と新たな気づきを示す記述が見られた。この記述後には、具体的に模型の製作に必要な材料や実現に向けた企画について、グループメンバーで話し合う姿が見られるなど、意欲の高まりが見取れた。上述のような生徒の変容から、学習活動に見通しをもたせ、自分事として捉えた課題を設定し、協働して課題解決に向けた方策を考えることにより、生徒の学習意欲を喚起し、主体性を育むことができると考える。

## 3 研究のまとめと今後の課題

本授業実践では、生徒の学習意欲を喚起する手立てを講じることで主体性を育むことに、一定の成果があったといえる。さらに、日頃から学習活動等で主体性を発揮させるためには、学校全体で育みたい資質・能力を踏まえた教育活動を組織的に推進するとともに、主体性を育む場面を多く設定するなど、工夫・改善に引き続き取り組んでいきたい。

### 【引用文献】

\*1 中央教育審議会、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』, P. 50

### 【参考文献】

・主体的学び研究所, 「主体的学び」, 東信堂, 2017, P. 127